

「たきび」について

福田 渡辺先生が作曲なさった「たきび」「ふしぎなポケット」「あくしゅでこんにちは」の中では、「たきび」が一番最初の作品ですね。詩を書いた異聖歌は、どのような方だったんでしょうか。

渡辺 先生はお酒が好きでね。初対面で僕が訪ねたとき、お酒を手ばなさないんですから。お酒を飲むと、「まあ、いいやいいや。」となってしまうようでしたねえ。「たきび」の話をして、「あー」とかおっしゃっていました。もちろん、ふだん飲まないときはきちんと「たきび」

の話をなさいましたけどね。

小野 渡辺先生が「たきび」を作曲されたのは、小学校の先生をなさっていたときでしたよね。30代のころでしょうか？

渡辺 1941年ですから、私が29歳のときです。詩を見たときに、これはいけると思いましたね。

小野 これは、はやるとお思いになったんですか。

渡辺 はやるといふか、これは自分で作りやすいし、つくれると思いました。「かきねのかきねの まがりかど たきびだ たきびだ おちばたき……」こうやって何回も口ずさんでいるうちに、自然に「かきねの かきねの まがりかど」がメロディーになって、するするっと曲が生まれたんです。

福田 では、「たきび」は、1時間くらいで作曲されたんですか。

渡辺 もともと、作曲のとき、実際に音符を書くだけの時間ぐらいしか必要じゃないんです。私は詩の言葉を大事にしてつくるので、作曲がはやいんじゃないかと思います。

小野 言葉にあわせてつくることを優先されるわけですね。

渡辺 そう、あんまり奇抜なメロディーにはしないんです。言葉にあわせたメロディーをつくっていくと、浪花節みたいに「はあ〜」ということはありませんから。

小野 無理のない、自然な歌ができるわけですね。

渡辺 そう。そうなんです、単に言葉に音をつけていくだけでは陳腐になってしまうんですよ。ですから、そのところは音楽的にいかに変化をつけるかに苦心しますね。

私は何回も詩を読みこむんです。何回も何回も読んでるうちに、その詩のイメージがわいてくる。すきとした詩のときには、イメージがすーっと浮かんできます。そういった詩は、当然ですがメロディーにのせやすい。まして、字数があっていたり、アクセントがあってい

たきび 異聖歌作詞 渡辺茂氏作曲

ふつふつの速、強で

かきねのかきねの まがりかど たきびだ たきびだ おちばたき

あたろうか あたらうと

「たきび」の楽譜（渡辺茂氏 直筆）

たりする詩だと、ぱちっといきますね。

次の「たきびだ たきびだ おちばたき」はですね、「たきびだ たきびだ・・・」と、語尾がさがるとおかしい。「たきびだ たきびだ わーい」という気分の詩ですから。そうすると、「たきびだ たきびだ おちばたき」と、自然に語尾が上がる形になる。

そこで次が「あたろうか」「あたろうよ」です。これは、たきびに「あたろうか」「あたろうよ」という会話なわけです。ここが曲の変化になるんです。

ただ、「びいふう」のところはちょっと考えたんですよ。本来なら、「びいふう」の場合、「びいふう」と、最初にアクセントがつくんです。ところが、2番の歌詞は、「おててが」なんです。ですから、「びいふう」にあわせてアクセントを最初につけると、「おててが」になってしまう。3番の歌詞は、「そうだんしながら」になってしまう。それはいやだったんです。ですから、「びいふう」と、後の方にアクセントを移動したんです。

小野 ほんとは「びいふう」なんですけど、2番、3番の歌詞を考えて、「びいふう」にしたわけですね。

渡辺 それは作曲者の自由ですから。

福田 「たきび」の異聖歌の詩は、一字も変更せずにそのままつかわれたんですか。

渡辺 そうです。場合によっては、詩人に変更をお願いするときもありますけれどね。でも異先生はがんばる方でした。「絶対俺はいやだ」って。一字たりとも直さない方でした。

小野 さきほどの、「びいふう」みたいに、2番、3番との兼ね合いから修正が必要であるをお願いしてもだめなんですか？

渡辺 だめでしたね。あの詩をつくる時、先生は中野区上高田の垣根道を歩きながら、想をねったそうです。先生にとって思い入れの深い詩だったからこそ、手直しすることはいやだったんでしょう。でも、大体アクセントに、うまくあわせて作曲できたと思います。

小野 異聖歌のすぐれた詩が、詩の言葉を最大限大切になさる渡辺先生に出会えた。だからこそ、あの「たきび」というすばらしい童謡が生まれたわけですね。

五十野 そういえば、NHKの「クイズ日本人の質問」で「たきび」が問題としてとりあげられてましたね。(1997年、11月9日、第216回放送分)あのときは、テレビで見てすぐに渡辺先生にお電話しました。

渡辺 そうでしたね。

五十野 この歌、ずいぶん色々なことがあったんですね。

渡辺 そうです。この曲を作った当時は、戦時中でした。ですから、落ち葉は貴重な資源であり、ましてたきびは敵機の標的になるという理由で軍部からしかられました。ようやく戦争が終わって、教科書にのせるはこびになったら、今度は「街角のたきびはあぶない」という反対意見がでてしまって、ずいぶん悩みましたよ。

小野 異さんは詩を変えてくれないし。(笑)



あぶないので大人とバケツの絵を加えた

渡辺 そうですそうです。(笑)でも、どうにかして、教科書にのせ続けようと出版社の人たちと頭をひねって、そこで、子どもたちだけでたきびをしていた挿し絵に、消火のためのバケツや、たきびを見守る大人をつけ加えたんです。

小野 渡辺先生のこの曲を愛する気持ちと、出版社の人たちの努力があったからこそ、「たきび」が多くの人々に歌いつがれる名作となり得たわけですね。